教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 心理学科　　資格： 准教授　　氏名： 三浦　彩美

研究分野	研究内容のキーワード
社会心理学	対人コミュニケーション（非言語行動）
学位	最終学歴
博士（学術），修士（学術），学士（人間関係学）	神戸大学大学院 総合人間科学研究科 博士後期課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.論文のクリティカル・リーディング	2016年4月～2021年9月	大学院の授業において，学術論文の「批判的読み」のトレーニングを実施した。「サンプル論文を配付し，まずは一人で読んで問題点（不十分な点，矛盾点，倫理的に問題がある点，方法論的に問題がある点，データ分析の不備など）をチェックするよう指示する。その後，4～5名のグループで互いに気づいたことをシェアする時間を設ける。最後に，グループから1名ずつ順に問題点を発表し，指摘する点がなくなるまで続ける。どの班からも指摘されなかった問題点については，最後に教員が補足を行なう」という流れで行った。
2.習熟度別演習授業	2011年4月～現在	心理学英語文献講読の授業において，初回授業で実施したプレイスメントテストの結果をもとに3つのグループを編成し，それぞれの習熟度に合わせた課題設定および授業を展開している。主体的な学習を促すために，指定した範囲について，予習課題（単なる和訳ではなく，内容を理解しなければ答えられないような課題）を課し，授業内でその回答の確認を行っている。
3.穴埋め形式の教材	2011年04月～現在	パワーポイント教材は，重要な用語の部分をアンダーライン（空欄）にした状態で学生に配布している。授業の中でそのキーワードを提示して書き取らせることにより，重要な部分を効率的に学習することが期待できる。
4.視覚情報を活用したパワーポイント教材	2011年04月～現在	授業で用いるパワーポイント資料に，イラスト，研究者の写真，図表などを積極的に掲載している。特にイラストは，難しい内容でも学生が楽しく学べるように，授業内容に関連するものを自ら作図している。
5.授業期間内の小テスト	2011年4月～現在	講義形式の授業において，授業期間内に3回（前半・中盤・後半）の小テストを実施し，成績評価の対象としている。授業で学んだことを復習せざるを得ない機会を設けることで，学生に定期的な復習の習慣を身につけさせることをねらいとしている。誤答が多かった問題については，テスト翌週の授業で補足説明も行なっている。
6.プレゼン力・質問力・ディスカッション力の向上	2011年4月～現在	聞き手にわかりやすいプレゼンを行う能力，および積極的に質問やディスカッションを行う能力を身につけるために，ゼミ（専門演習）の時間においてプレゼンやディスカッションの機会を多く取り入れ，活発な質疑応答が展開できるよう指導している。
7.振り返り小テスト	2009年04月～2011年03月	毎回の授業の初めに前回の講義内容に即した小テスト（7問程度，選択式）を実施し，答え合わせをしながら振り返りを行った。分からないところがその場で把握できるため，学生にとっては自身の理解の程度を知るきっかけとなった。誤答が多かった部分については，翌週の授業で補足説明を行った。
8.新聞記事の授業への活用	2007年04月～2011年03月	発達や教育に関連する新聞記事を中心に切り抜きを集めたプリントを毎回の授業で配付した。最新の記事に触れることで，現在の日本におけるさまざまな問題（保育現場，教育現場，家庭における諸問題）について知り，考えるきっかけを提供した。
2 作成した教科書、教材		

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
1.心理演習 授業資料	2020年9月～	公認心理師指定科目「心理演習」（3年次通年）の後期の授業資料を他の科目担当教員と協力して作成した。初年度にあたる2020年度に実施した内容が2年目は前期に回ったため，2年目の後期は，学生がよりスムーズに実習に行けるような内容（実習記録の指導等）を盛り込んだものとし，3年目の後期はさらに傾聴訓練を加えてブラッシュアップした。学科教員の誰が担当しても当該科目を遂行できるよう資料作成を行い，15回分の授業内容をほぼ確立させることができた。
2.公認心理師実習 学外実習の手引き	2017年4月～2019年3月	大学院における公認心理師実習（2018年9月～）に先駆け，2018年春から病院実習を開始させたM2用の学外実習の手引き作成を担当した。学部の精神保健福祉士実習の手引きをベースに公認心理師用手引きのたたき台を作成し，実習委員会で内容の検討を重ねながら，情報の追加・削除，表現の修正を行い，完成させた。また，実習に必要な書類（個人票や各種記録用紙等）についても，収集した情報をもとにフォーマットの検討を行った。以降，手引き・書類様式ともに，実習期間開始前に修正を加え，改良・情報更新を行った。担当期間終了後も、毎年の手引きの見直しのタイミングで積極的に担当教員に気づいた点を伝えるようにしている。
3.心理学英語文献講読テキスト	2012年4月～現在	心理コース2年生対象の「心理学英語文献講読」の授業で使用するテキストを作成した。教材となる著書・論文について，英文をページの左側に配置し，その英文に登場する心理学の基本用語，頻出単語，頻出イディオム等をページの右側に記載する形式にする（それらの用語については予習の際に意味を調べて書いておくよう指示する）ことで，学生が重要な表現や単語を文章と対応させながら学べるよう工夫した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.武庫川女子大学附属高校 模擬授業 講師	2018年02月06日	高大連携事業（導入教育）として，附属高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
2.初期演習における職業紹介（家庭裁判所調査官）	2017年11月	心理学・社会福祉を学ぶ学生に，進路に関する視野を広げてもらうことを目的とし，家庭裁判所から2名の調査官（女性主任調査官および男性新人調査官）を招いて家裁調査官という仕事の魅力や具体的な職務内容について講演してもらった。その講演にかかわる交渉，連絡・調整，当日司会等を担当した。講演後は，学生が提出したレポートから感想や質問をピックアップし，文書にまとめた上で先方に送付した。また，先方から送られてきた質問に対する回答文書の学生へのフィードバックも行った。
3.鳴松会教養講座 講師	2013年10月20日	文化祭に合わせて開催された鳴松会教養講座において，「だから説得されたのか！」というテーマで講義を行った。
4.朝小サマースクール in 武庫川女子大学 講師	2013年08月06日	小学生を対象に「ものの見え方の不思議」というテーマで体験授業を行った。
5.武庫川女子大学附属高校 模擬授業 講師	2013年02月05日	高大連携事業（導入教育）として，附属高校2年生を対象に「集団の中で私たちはどのようにふるまうのか？」というテーマで講義を行った。
6.担任学生の指導	2012年04月～現在	担任クラスの学生の授業への出席状況や成績などを適宜確認し，状況に応じて指導・サポートを行っている。特に，授業を連続欠席している学生については，早めにコンタクトをとって個人面談を実施し，問題解決のためのアドバイスを行っている。
7.高大連携事業（特別学期）	2012年2月～現在	附属高校生を対象とする高大連携事業の一環として2月に2日間の演習授業を行なっており，1年生担任の前年

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
8.卒論指導・修論指導	2011年04月～現在	度に講師を担当した。 〈2012年と2014年〉 1日目に心理学をテーマとするミニ講義とノートテイキングの演習を行い，2日目は調べ学習の成果をまとめたグループ発表と講評を行った。 〈2017年〉 1日目は心理学と社会福祉にかかわるテーマを提示した後，図書館の利用方法を説明してテーマに関連する図書を探して借りてくるよう指示し，その後プレゼンのノウハウをレクチャーした。2日目はグループ発表を行い，発表について積極的に質問するよう働きかけたり，相互評価の機会を設定したりすることで，全体的にコミットメントが高まるよう工夫した。 〈2023年〉 1日目は導入教育の趣旨説明および心理学という学問の概要説明を行った後，グループに分かれ，提示されたテーマから１つを選択した。プレゼンの概要説明の後，グループごとに教員の解説や助言を受けながら発表準備を行った。 2日目は，グループ発表，質疑応答，講評を行った。 授業が入っていない曜時に卒論・修論の個別指導を行っている。学生が「自分の研究」という感覚を失わずに高いモチベーションを維持しながら研究を進めていけるよう，丁寧な指導・助言を行っている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.認定心理士 2.秘書技能検定2級	1998年03月15日 1996年11月10日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.教学局 教務部常任委員	2024年4月～現在	教務部常任委員会および教務委員会に出席し，各種議題についての審議や報告を行っている。初期演習の見直し案の提案や合同教授会FD用資料の作成等の業務も積極的に行っている。また，定期試験および追・再試験の不正行為に備えた待機，地域別教育懇談会における教務部説明などの役割も担当している。
2.尼崎高校 模擬授業（出張講義）講師	2024年3月4日	高校1年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
3.学科 FD推進委員会委員	2023年4月～現在	会議へ出席し，学科での情報共有を行っている。他学科のFDに学科FD委員として出席し，資料や質疑の内容を学科で共有した。また，学科教員の協力を得て年度内の学科FDの情報集約を行い，FD推進委員会の会議で実施報告を行った。
4.学科 編入学試験主担	2023年4月～2024年3月	短心から大心への編入学試験（第1次・第2次）に係る業務を担当幹事教授や助教と連携をとりながら行った。
5.学科 広報主担	2023年4月～2024年3月	学科広報業務の主担として，学科広報入試委員と連携をとりながら、大学院推薦入試説明会，文学研究科オープンキャンパス，学部オープンキャンパス，高校ガイダンス，学科パンフレット，大学院パンフレット等に係る業務を行った。
6.鳴尾高校 模擬授業（出張講義）講師	2023年3月2日	高校1・2年生を対象に「心理学入門」というテーマで授業を行った。
7.心理学科開設準備ワーキンググループ	2022年9月～2023年3月	心理学科開設に向けて，kitoneを用いたタスク管理・共有をしながら，開設までに考えておくことややるべ

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		きことを検討した。
8.教学局 教務委員	2022年9月～2023年3月	令和5年度からの新学部開設に向けて，後期より心理学科の教務委員を担当した。
9.三木高校 模擬授業（出張講義）講師	2022年7月11日	高校1年生を対象に「心理学とは：生活に生かされる学問」というテーマで授業を行った。
10.オープンキャンパス模擬授業	2022年6月18日	「人はなぜ説得されるのか？」というテーマで授業を行った。
11.学科 心理領域教務担当	2022年4月～2022年8月	心理領域にかかわる教務業務を担当した。
12.教育専門委員会	2021年11月～2022年3月	武庫川学院理事会からの「新しい武庫女教育」の実現に向けた試問を受けて発足した委員会の一員として，教育理念や教学マネジメントシステムについて議論・検討を行い，答申という形でまとめる業務に携わった。
13.心理学科実用系科目ワーキンググループ	2021年9月～現在	心理学科の「実用系」科目（プロジェクトマネジメントの実践，社会実践実習Ⅰ・Ⅱ」について，授業計画や具体的な授業内容，履修要件等について検討を進めている。
14.編入学試験作問担当	2021年4月～現在	編入学試験（短大 心理・人間関係学科→大学 心理・社会福祉学科心理コース）の基礎系心理学の問題作成を担当している。
15.新学部構想カリキュラムワーキンググループ	2019年6月～2022年3月	新学科で養成する人材像，取得できる資格，カリキュラム等について具体的かつ詳細な検討を行った。
16.教学局 教務委員	2019年4月～2021年3月	学科準備室書記，学科助手・助教，教務委員が行っていた全ての業務をリストアップ・整理したうえで，業務分担の見直しと配当を行った。通常の教務業務に加え，コロナ禍における様々なイレギュラーな業務にも対応した。
17.学部演習実習ワーキンググループ	2018年11月～2019年9月	学部の公認心理師養成カリキュラムにおいて2020年度から「心理演習」，2021年度から「心理実習」が開始することに伴って発足したワーキングの一員として，養成したい人材像（到達目標）を明確化させつつ演習・実習の授業内容や実施形式を具体化する作業を進めている。
18.地域別教育懇談会（高松会場）出席	2018年09月08日	地域別教育懇談会（高松会場）に出席した。個人面談において保護者の個別の相談に丁寧に応じた後，懇親会では積極的に話しかけて交流を図った。
19.オープンキャンパス模擬授業	2018年06月3日	「説得の心理学～人はなぜ説得されるのか～」というテーマで授業を行った。
20.学科 心理領域教務担当	2018年4月～現在2019年3月	CU原案作成，KT原案作成（教員間の調整，領域間の調整，非常勤講師の調整），ゼミ変更希望者への対応，カリキュラム・マップ原案作成，カリキュラム・ツリー原案作成，各種変更にともなう文書作成や過年度便覧等の修正，特別学期の計画・担当者調整，時間割の調整，編入に関する調整，公認心理師・認定心理士等の資格にかかわる調整など，心理領域における教務関連の業務を担当している。
21.入試学外試験場チーフ	2017年11月～2022年11月	3年間務めた広報入試委員の経験を活かし，入試センターからの学外試験場チーフの担当依頼を積極的に引き受けた。2017年は高松会場，2018年は和歌山会場，2019年は金沢会場，2020年は高松会場、2021年は広島会場，2022年は福岡会場を担当した。
22.学科 広域大学連携事業 教育プログラム検討委員会委員	2017年4月～2019年3月	会議への出席に加え，広域大学連携科目の受講を学生に呼びかける際の授業担当者への事前依頼および日程調整を行なった。
23.大学院入試問作委員	2017年4月～2018年3月	大学院（臨床心理学専攻）の入試問題作成および採点を担当した。
24.学科 3つのポリシー統括 主担	2017年04月～2018年03月	3つのポリシー，カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーについて，大学，短大，大学院の統括を行った。各領域への依頼，領域間の調整，全体の整合性の確認，提出前の最終チェックを行うとともに，教

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		務課・文学部事務室との連絡窓口を担当した。
25.心理領域将来構想ワーキンググループ	2017年04月	公認心理師養成における学部と大学院の関係，大学院の目標，学部の養成人数，領域内コース分けの可否，卒論の位置づけ，短大の位置づけ等について協議した。
26.播磨南高校 模擬授業 講師	2016年10月07日	大学見学に訪れた高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
27.丸亀城西高校 模擬授業 講師	2016年09月15日	大学見学に訪れた高校生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
28.鳴松会地区懇談会への出席	2016年08月～現在	2016年8月の高松会場へは鳴松会常任幹事として，2017年9月の金沢会場へは学科教員として出席し，積極的に卒業生の方々との交流の機会をもった。
29.東灘高校 模擬授業 講師	2016年07月21日	大学見学に訪れた高校生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
30.雲雀丘学園高校 One Day College（模擬授業・出張講義） 講師	2016年07月09日	高校生を対象に「望ましい自己主張のあり方とは？―心理学研究法を体験しよう―」というテーマで，ロールプレイ，観察法，質問紙法を組み合わせた演習式の授業を行った。
31.梅花高校 模擬授業（出張講義）講師	2016年05月25日	高校生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
32.鳴松会常任幹事	2016年04月～2018年06月	鳴松会の日，文化祭，奨学生の選考業務を行った。とくに鳴松会の日については，平成29年度の心福担当（健スポ・音楽との共催）の際，3学科全体のリーダーとして取りまとめを行った。懇親会受付を効率的に行うために，受付の流れや個々の役割分担を明確にしたうえで，当日の留意点等も含む説明資料を作成し，全スタッフに資料を配布して協力を求めた。学科の講演についても調整・運営を行った。
33.上宮高校 模擬授業 講師	2015年12月16日	大学見学に訪れた高校1･2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
34.北摂つばさ高校 模擬授業 講師	2015年12月11日	大学見学に訪れた高校1･2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
35.神戸甲北高校 模擬授業（出張講義）講師	2015年10月07日	高校1年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
36.播磨南高校 模擬授業 講師	2015年10月02日	大学見学に訪れた高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
37.山陽女子高校 模擬授業 講師	2015年07月16日	大学見学に訪れた高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで授業を行った。
38.東播磨高校 分野説明 講師	2015年06月23日	大学見学に訪れた高校2年生を対象に「心理学・社会福祉とは」というテーマで授業を行った。
39.西宮市立学文公民館 地域講座 講師	2015年03月04日	地域の人々を対象に「心理学～顔とこころ～」というテーマで講演を行った。
40.編入学試験問作担当	2015年～2017年	編入学試験（短大 心理・人間関係学科→大学 心理・社会福祉学科心理コース）の基礎系心理学の問題作成を担当した。
41.上宮高校 模擬授業 講師	2014年12月16日	大学見学に訪れた高校1･2年生を対象に「集団の中で私たちはどのようにふるまうのか？」というテーマで授業を行った。
42.梅花高校 分野説明（出張講義）講師	2014年12月08日	高校2年生を対象に，心理学という学問領域の概要や心理学の学びを生かした進路などについて説明した。
43.地域別教育懇談会（高松会場）出席	2014年08月30日	地域別教育懇談会（高松会場）に出席した。個人面談において保護者の個別の相談に丁寧に応じた後，懇親会では積極的に話しかけて交流を図った。
44.山陽女子高校 分野説明 講師	2014年07月09日	大学見学に訪れた高校2年生を対象に「心理学・社会福祉とは」というテーマで授業を行った。
45.教学局 広報入試委員	2014年04月～2017年03月	広報においては，高校への出張講義や大学見学対応を数多く担当し，入試相談会にも出向いた。また，オープンキャンパスでは，全日程でアゼリアの相談ブースを担当した。入試においては，当日の各種業務に加え，試験問題の搬入，前日準備，再開テスト試験監督

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		等を他学科の委員と協力して行った。女性委員が少なかったため，入試の際，インフルやノロ等の別室受験の試験監督を率先して担当した。
46.学科パンフレット編集委員	2014年04月～2015年05月	学科パンフレットに関わる業務（学生・卒業生の選出，学生・卒業生への原稿依頼および原稿の修正，教員の選出・原稿依頼，原稿作成・チェック，写真撮影立ち合い，印刷業者との調整等）を行った。
47.オープンキャンパス模擬授業	2012年8月11日	「『だから説得されたのか！』の心理学」というテーマで授業を行った。
48.教学局 学生委員	2012年04月～2014年03月	学生指導や学校行事の運営に関する業務を行った。特に体育祭および文化祭においては開催中の巡回を行い，行事がスムーズに進行できるようサポートを行った。また，幹事長・副幹事長と密に連絡をとりあい，学科の幹事会が効果的に機能するよう指導・助言した。
49.学科 キャンパスガイド編集委員	2012年04月～2014年03月	キャンパスガイドに関わる各種業務（学生および卒業生の選出にかかわる調整，教員に対する原稿作成・撮影依頼，校正チェック等）を行った。
50.太子高校 模擬授業（出張講義）講師	2012年02月15日	高校1年生を対象に「心理学の学び」というテーマで授業を行った。
51.カリキュラム・マップ作成ワーキンググループ	2012年	カリキュラム・マップの作成にあたり，カリキュラムの再検討およびマップ上の配置について検討した。
52.学科 短大名称ワーキンググループ	2012年	新CUのコンセプトを中心に今後の短大にふさわしい科目名を検討した。複数の案について高校生を対象にアンケート調査（Web・郵送）を実施し、その結果を踏まえて新学科名称の提案を行なった。
53.オープンキャンパス模擬授業	2011年08月13日	「『だからあなたが好き！』の心理学」というテーマで授業を行った。
54.学科 学習支援室室長	2011年04月～2013年03月	院生によるTA業務や学習支援について，院生や助手と情報を共有し，必要に応じて学科審議の機会を設けながら，適切な運営が行なえるよう務めた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.美と魅力の心理学	共	2019年10月10日	ミネルヴァ書房	Ⅱ-9「美しいとトクをする？：身体的魅力と評価」を担当。容貌やスタイルが良ければ人は得をするのかについて，古典的研究から得られた知見を紹介しながら分かりやすく概説した。合わせて，日本人とアメリカ人では身体的魅力と評価の関連のあり方が異なることについても，考察を添えて説明した。 著者：三浦佳世，河原純一郎，三浦彩美，他
2.行動科学への招待 改訂版－現代心理学のアプローチ	共	2012年01月20日	福村出版	2章「対人行動」(pp.33-43)を担当。対人コミュニケーションの中でもとくに非言語コミュニケーションに注目し，その分類と特徴を説明した。また，対人関係における自己開示，自己呈示，社会的スキルについても述べた。 著者：米谷淳，米澤好史，尾入正哲，神藤貴昭，三浦彩美，小林知博，近藤清美，溝上慎一，西垣悦代，十河宏行，村上晴美
3.発達・社会からみる人間関係－現代に生きる青年のために	共	2009年04月10日	北大路書房	1章「乳幼児期の親子関係」(pp.3-16)，8章「非言語行動」(pp.137-149)を担当。「乳幼児期の親子関係」においては，乳児が生まれながらに様々な能力を持っており，それが母子の情緒的な絆の形成に重要な役割を果たしていることについて述べた。ボウルビィの愛着理論，児童虐待の問題にも触れている。また「非言語行動」においては，対人コミュニケーションにおける非言語行動の機能について述べ，その分類や文化差についても検討した。 著者：西垣悦代，三浦彩美，高井範子，柏尾眞津子，小林知博，金政祐司，三浦麻子
2 学位論文				
1.映画作品における表情表出	単	2003年03月31日	神戸大学大学院総合人間科学研究科	まず基本表情と定義されている表情と，映画作品の感情表現場面でみられる典型的表情のどちらが自然な表情としてとらえられるのか

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
			（博士論文）	を動作教示法を用いた評定実験で検証した。次に日本人の典型的表情の特徴をとらえるために6つの映画作品から取り出した表情を分析した。また，日本人が邦画の登場人物の感情を読みとる時に文脈情報がどのような影響を及ぼすかについても検討し，映画作品を用いた表情研究の意義と課題を示した。
2.映画における日本人と欧米人の表情表出	単	2000年03月31日	神戸大学大学院総合人間科学研究科（修士論文）	映画作品（邦画・洋画各1作品）における登場人物の表情について，FAST（Facial Affect Scoring Technique）による表情分析を行なった。7つの基本表情が出現する時間を比較したところ，邦画において悲しみの表情の表出時間が少ないことがわかった。また，邦画では悲しみの場面で顔を見せまいとするしぐさが多かったが，洋画ではみられなかったことから，日本人は悲しみを隠す傾向があることがわかった。
3 学術論文				
1.失敗観が高齢者の主観的幸福感に及ぼす影響（査読付）	共	2018年03月	人間学研究，30，11-19 武庫川女子大学人間学研究会	高齢者が失敗をどのように捉え，向き合うか，という高齢者の「失敗観」に焦点を当て，65歳以上の高齢者200名（男性46名，女性154名）に質問紙調査を実施し，高齢者の失敗観の構造を検討した。さらに，心理的ストレスへの対処方略が失敗観に影響を及ぼし，さらに失敗観から主観的幸福感に影響を及ぼすという仮説概念モデルを提案し，検証した。高齢者の失敗観の因子構造を検討した結果，「失敗の否定」「失敗の受容」「失敗へのとらわれ」「失敗による成長」の4因子構造であることが明らかになった。仮説概念モデルを検討するためにパス解析を行った結果，「失敗の受容」と「失敗へのとらわれ」が高いほど主観的幸福感が低くなり，「失敗による成長」が高いほど主観的幸福感が高くなることが明らかになった。また，回避型の情動対処である「回避的思考」は主観的幸福感を高める失敗観を形成していた。以上より，高齢者を支援する際には，個人が持つ失敗観に注目することが重要であることが示唆された。 著者：安井美貴，三浦彩美
2.大学女子水泳選手におけるプリ・パフォーマンス・ルーティンとその効果との関連（査読付）	共	2017年03月31日	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学），64，61-70	本研究の目的は，学生水泳選手がレース直前に意識的に行う行動（ルーティン行動）とその効果の関連を調べることであった。研究1では90名の学生スポーツ選手（女子）がルーティン効果を問う項目に回答した。探索的因子分析にもとづき，18項目をルーティン効果尺度を構成する項目として抽出した。研究2では，女子水泳選手20名のレース直前のルーティン行動を録画し，行動分析によって各選手のルーティン行動を特定した。20名の選手は，試合後にルーティン効果尺度に回答し，あわせてレース前に毎回意識的に行っている行動もリストから選んで回答した。各選手のルーティン行動と選手自身が意識的に行っている行動との合致率を算出した結果，合致率とルーティン効果尺度得点の間に相関はみられないことが明らかになった。これをふまえ，ルーティン行動の意味を選手の経験年数との関連から考察した。 著者：三浦彩美，岩村遥佳
3.大学・短大進学希望者のニーズを探る	共	2013年03月	人間学研究，28，59-62 武庫川女子大学人間学研究会	短大名称および短大カリキュラムを検討することを目的とし，高校生96名を対象に，希望進路や進学希望理由等を問うアンケートへの回答を求めた。Web調査と郵送調査で収集した回答データを分析したところ，大半が大学・短大への進学を希望していること，その理由として「自分の興味や可能性を広げたいから」「将来の選択肢を広げたいから」「好きなことを勉強したいから」が上位にきていることがわかった。また，学年による差が見られ，1・2年生は就職できるのであれば大学・短大の進学にこだわらない傾向があることや，学問に対する欲求は学年があがるにつれて高くなっていくことが明らかになった。 著者：松村憲一，大岡由佳，三浦彩美，堀善昭，小花和 W. 尚子
4.大学院原子力工学専攻の授業評価はなぜ上がったか（査読付）	共	2004年05月20日	工学教育，52，86-92 日本教育工学協会	21世紀COEプログラム「新産業創造指向インターナノサイエンス」において大学院教育の全般的な見直しと改革が進められるなか，その取り組みを客観的に評価するためにさまざまな調査研究を実施した。その1つが学生を対象とする授業評価アンケートであり，平成14年度と15年度の評価を比較することにより教育改革の効果を測定した。その結果，多くの項目で評価が上昇しており，学生の予復習

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				の促進，受講態度や課題提出を含む総合的評価を取り入れたことがその要因となっていることが示唆された。 著者：山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，松本隆信，米谷淳
5.日本人の表情認知構造－動作教示法による表情を用いた再検討	単	2003年03月31日	鶴山論叢，3，97-110 神戸大学国際文化学部・大学院総合人間科学研究科 鶴山論叢刊行会	日本人が文化普遍な基本表情と，映画やドラマの感情表現場面でみられるような表情とをそれぞれどのような認知的枠組にもとづいて知覚しているのかを検討した。その結果，基本表情と典型的表情のそれぞれを日本人が正しく解読できることを示唆する結果が得られた。また，因子分析の結果にもとづいて日本人の表情認知構造の特徴を調べたところ，基本表情や欧米人の典型的表情に対する認知構造と，日本人の典型的表情に対する認知構造では，とくに悲しみのカテゴリーの位置に違いがあることが確かめられた。
6.表情研究における「映画」の可能性（査読付）	単	2002年03月31日	国際文化学，6，91-103 神戸大学国際文化学会	表情研究の分野で映画がどのように用いられてきたかを概観し，映画作品を用いた表情研究においても重要な問題である基本表情と表示規則について述べた。さらに映画に出演する俳優の行動様式や表情を具体的かつ計量的に検討した過去の研究をとりあげ，それらの知見を感情表現および表情表出の文化差の点から概括し，最後に映画の中の表情を対象とした表情研究の今後の展望について論じた。
7.映画における日本人と欧米人の表情表出（査読付）	単	2000年09月30日	国際文化学，3，49-60 神戸大学国際文化学会	映画作品（邦画・洋画各3作品）から60の感情表現場面を取り出した。被験者が登場人物の感情を評定し，一致率の高かった場面の表情をFACS（Facial Action Coding System）により分析した。その結果，邦画洋画ともにいわゆる典型的な基本表情ではない顔の動きが多く観察された。とくに恐れの表情において日本人と欧米人に違いがあることが示唆された。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.Relationship between the pre-performance routines and the effectiveness of these behaviors in student-swimmers.	共	2016年07月26日	The 31st International Congress of Psychology （開催地：横浜）	学生水泳選手が試合直前に意識的に行う行動（ルーティン行動）とその効果の関連を調べるために，研究1では90名のスポーツ選手にルーティン効果を問う項目への回答を求め，因子分析結果にもとづき28項目からなるルーティン効果尺度を作成した。研究2では，水泳選手20名の試合直前の行動を録画し，ルーティン行動を特定した。試合後，選手にルーティン行動尺度への回答を求めた。また意識的に行っている行動を問い，その行動と実際の行動との合致率を算出した。その結果，ルーティン効果尺度得点と合致率との間に相関は見られなかった。ルーティン効果の意味は，経験年数との関連から考察した。 著者：三浦彩美，岩村遥佳
2.原子力工学専攻大学院生の意識調査(3)－研究・教育に対する意識の経年変化	共	2005年09月24日	日本社会心理学会第46回大会発表論文集	21世紀COEプログラムにもとづく教育改革が進められるなか，学生の大学院における教育・研究に対する意識がどのように変化しているのかをとらえるために，平成14～16年度の3年間で回答の傾向が変化している項目をとりだして，その要因について検証した。評価の平均値を比較すると，教育・研究に対する意識や悩みが変化していることがわかり，とくに教育レベルを問う項目からは，学生が大学院教育に対してより高いレベルの授業や研究指導を求めていることが示唆された。 著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳
3.大学院教育の改革と学生評価(6)－学生による授業評価と教員による自己評価	共	2005年09月13日	日本原子力学会2005年秋の大会要旨集，24	原子力工学専攻で開講された授業に対する大学院生の授業評価について，平成14～16年度の3年間の経年変化に着目しながら，学生評価の結果と教員による自己評価アンケートの結果とを比較・検証した。その結果，学生評価の経年変化については7教科中5教科で平均値の上昇がみられ，教員の具体的かつ積極的な工夫や努力が授業改善に結びついていることが示唆された。また16年度の学生評価と教員評価を比較すると，7教科全てにおいて平均値に大きなズレはみられず，教員と学生それぞれの視点から見た授業の評価が一致していることがわかった。 著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
4.原子力工学教育の教育効果(6)－大学院生の教育・研究に対する意識の経年変化	共	2005年09月09日	日本工学教育協会平成17年度講演論文集，228-229	21世紀COEプログラムにもとづく教育改革が進められるなか，学生の大学院における教育・研究に対する意識がどのように変化しているのかをとらえるために，平成14～16年度の3年間で回答の傾向が変化している項目をとりだして，その要因について検証した。評価の平均値を比較すると，教育・研究に対する意識や悩みが変化していることがわかり，学生が大学院教育に対してより高いレベルの授業や研究指導を求めていることが示唆された。 著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳
5.原子力工学教育の教育効果(5)－授業評価アンケートと学生の顔上げ行動	共	2005年09月09日	日本工学教育協会平成17年度講演論文集，226-227	インターナノサイエンスをテーマとする新しい授業について，受講中の学生の顔上げ行動を観察・分析した結果と，授業評価アンケートの結果とを比較することによって，授業評価と学生の受講態度の関連を調べた。その結果，授業評価の高い講義は顔上げ行動の生起率が高く，時系列的に見ても終始60％を切ることはなかった。一方授業評価の低い講義は顔上げ行動の生起率も低く，授業後半になると4割の学生が顔を上げていない時間があり，授業評価と学生の受講態度に対応関係があることが示唆された。 著者：宇埜正美，山中伸介，三浦彩美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳
6.原子力工学教育の教育効果(4)－授業評価アンケートと教員自己評価アンケート	共	2005年09月09日	日本工学教育協会平成17年度講演論文集，224-225	原子力工学専攻で開講された授業に対する大学院生の授業評価について，平成14～16年度の3年間の経年変化に着目しながら，学生評価の結果と教員による自己評価アンケートの結果とを比較・検証した。その結果，学生評価の経年変化については7教科中5教科で平均値の上昇がみられ，教員の具体的かつ積極的な工夫や努力が授業改善に結びついていることが示唆された。また16年度の学生評価と教員評価を比較すると，7教科全てにおいて平均値に大きなズレはみられず，教員と学生それぞれの視点から見た授業の評価が一致していることがわかった。 著者：山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳
7.原子力工学専攻学生の原子力の学問や産業に対する意識	共	2005年03月31日	日本原子力学会2005年春の年会要旨集，8	原子力工学専攻の学部学生および大学院生を対象に行なった平成16年度の意識調査の結果から，学生が原子力の学問や人材育成は社会的に必要であると考えているが，原子力産業に関してはあまり魅力が感じられず，従事したいという意識もそれほど高くないことがわかった。原子力の学問に対する魅力は，社会的必要性に比べると低くなっているが，学習意欲は比較的高かった。また，原子力の学問や産業の魅力と原子力発電所の必要性や将来性との関係はあまり強くないことも示唆された。 著者：松本隆信，上田宣孝，山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，米谷淳
8.大学院教育の改革と学生評価(5)－学生の受講態度と授業評価アンケート結果との比較	共	2005年03月31日	日本原子力学会2005年春の年会要旨集，7	原子力工学専攻の大学院生を対象に開講された集中講義において，授業評価アンケートと受講生の受講態度の分析を行なった。2つの指標にどのような関連性がみられるかを客観的データにもとづいて検討したところ，学生の授業評価が高かった講義においては，学生は顔をあげて授業を聞き，あくびや背伸びなどの行動がほとんど観察されなかった。一方，授業評価の低い講義においては，あくびが多く観察されていた。このことから，授業評価と受講態度に関連性があることが示唆された。 著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，松本隆信，上田宣孝，米谷淳
9.大学院教育の改革と学生評価(4)－平成14年度～平成16年度の授業評価アンケート結果の比較	共	2005年03月31日	日本原子力学会2005年春の年会要旨集，6	原子力工学専攻の大学院生を対象に実施された平成14年度から16年度にかけての3年間の授業評価アンケート結果をもとに，回答の特徴と傾向の変化を分析した。その結果，5段階評価で平均値が3.75以上の教科は14年度は1教科しかなかったのに対し，平成16年度には3教科に増え，さらに15年度，16年度ともに平均値3.25以上の教科が6割以上を占めていた。教員に対して実施した自己評価アンケートの結果から，各教員が積極的に授業改善に取り組んでいることがうかがえ，その姿勢が学生に伝わったことが授業評価の結果に結びついたと考えられる。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
10.大学院教育の改革と学生評価(3)－卒業研究が学生に与える教育効果	共	2004年09月16日	日本原子力学会2004年秋の大会要旨集，80	著者：上田宣孝，松本隆信，山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，米谷淳 原子力工学専攻の学部4年生を対象に，卒業研究に本格的に着手する直前と卒業研究終了直後という2つの時点において，卒業研究に関するアンケート調査を実施し，学生の満足度に着目しながらその教育効果について分析・検討した。その結果，満足度を問う7項目について全て平均値の上昇がみられた。また能力・知識・技術に関する自己評価の変化をみても，研究終了後の方が高い平均値が示された。さらに，所属研究室に対する満足度が自己評価に影響を及ぼしていることも示唆された。
11.大学院教育の改革と学生意識調査(1)－原子力工学専攻大学院生の悩みとその経年変化	共	2004年09月14日	日本心理学会第68回大会発表論文集，224	著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，米谷淳 阪大原子力工学専攻に所属する大学院生を対象に実施した意識調査の結果のうち，悩みとその経年変化に着目し分析・検討を行なった。14年度と15年度を比較したときに変化が認められた項目は，就職活動に時間がとられる，雑用に時間を取られる，指導教官や院生との人間関係，就職に見通しが立たない，という4項目で，いずれも14年度よりも15年度の方が悩む学生が増えていることが示唆され，また学年による違いもみられた。
12.Facial expressions in movie pictures ？Comparison between Japanese movies and Western movies	共	2004年08月12日	The 28th International Congress of Psychology（開催地：北京）	著者：三浦彩美，山中伸介，米谷淳，松本隆信 映画作品（邦画・洋画各3作品）から60の感情表現場面を取り出した。被験者が登場人物の感情を評定し，一致率の高かった場面の表情をFACS（Facial Action Coding System）により分析した。その結果，邦画洋画ともにいわゆる典型的な基本表情ではない顔の動きが多く観察された。とくに恐れの表情において日本人と欧米人に違いがあることが示唆された。
13.原子力工学教育の教育効果(3)－卒業研究の効果に関する研究	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集，189-190	著者：三浦彩美，米谷淳 原子力工学専攻の学部4年生を対象に，卒業研究に本格的に着手する直前と卒業研究終了直後という2つの時点において，卒業研究に関する同一内容のアンケート調査を実施し，学生の満足度に着目しながらその教育効果について分析・検討した。その結果，満足度を問う7項目については全て平均値の上昇がみられた。また能力・知識・技術に関する自己評価の変化をみても，研究終了後の方が平均値が高かった。さらに，所属研究室に対する満足度が自己評価に影響を及ぼしていることも示唆された。
14.原子力工学教育の教育効果(2)－大阪大学と原子力工学専攻に対するキャンパスイメージ	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集，187-188	著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，米谷淳 阪大原子力工学専攻に所属する大学院生を対象に意識調査を実施し，大阪大学と原子力工学専攻についてそれぞれどのようなイメージをもっているのかを比較・検討した。その結果，アカデミック，創造的，専門的といった項目については，大阪大学よりも専攻に対する評価の方がひくかった。しかし，自由，充実したなどの項目においては両者に違いはなく，温かいというイメージは上昇していることから，学生が専攻を居心地のよい場所と感じていることがわかった。
15.原子力工学教育の教育効果(1)－教育効果の規定因の検討	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集，185-186	著者：宇埜正美，山中伸介，三浦彩美，松本隆信，米谷淳 新教育システムの評価の一環として実施した阪大原子力工学専攻大学院生による授業評価アンケートの結果をもとに，COEプログラムを客観的に評価し，大学院教育においていかなる要因が教育効果を規定するのかについて検討した。14年度と15年度のデータを分析したところ，全ての項目において評価平均値の上昇がみられた。とくに履修意義が上昇しており，授業興味や予復習など学生自身の積極性が履修意義上昇の主な要因となっていることが示唆された。
16.原子力工学専攻大学院生の意識調査(2)－研究・教育に対する満足度と原子力への態度	共	2004年07月19日	日本社会心理学会第45回大会発表論文集	著者：山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，松本隆信，米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なった意識調査の結果のなかから，教育・研究環境に対する満足度と原子力への態度に関する項目に着目し，前年度の結果と比較しながら分析・考察を行なった。満足度については，望ましい変化の見られない項目があったが，「どちらでもない」という曖昧な回答をする学生は減少していた。また原子力への態度については，とくに博士後期課程の学生において平均値の上昇がみられ，高い意識とモチベーションをもって

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
17.大学院教育の改革と学生評価(2)－平成14年度後期と平成15年度前期の授業評価アンケート調査結果の比較	共	2004年03月20日	日本原子力学会2004年春の年会要旨集，27	学習・研究に取り組んでいることがわかった。 著者：三浦彩美，山中伸介，宇埜正美，松本隆信，米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なった授業評価アンケートの結果について，年次変化に注目して比較・検討した。その結果，14年度よりも15年度の方が授業に対する評価が全般的に上昇しており，5段階評価で平均値2.5以下の科目が大幅に減少していた。また主成分分析を行ない，因子得点の高い教科の特徴をみると，とくに出席率と教官熱意において高い平均値を示しており，学生はよい授業にはよく出席し，また教官の熱意を感じとっていることが示唆された。
18.大学院教育の改革と学生評価(1)－阪大原子力工学専攻大学院生の入学動機と教育環境	共	2003年09月25日	日本原子力学会2003年秋の大会要旨集，194	著者：三浦彩美，山中伸介，松本隆信，米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なったWeb方式のアンケート調査の結果のうち，とくに入学動機と教育環境に着目した。入学動機は，学部で行ったことの継続，就職上有利，先端分野の知識や技術を修得したいといったものが多かった。また教育環境については，教官の熱意，基礎知識が身につく，最新の知識が身につくといった項目で比較的高い平均値が示され，また博士前期よりも後期課程の学生の評価が良いこともわかった。
19.原子力工学専攻大学院生の意識調査(1)－キャンパスイメージと原子力への態度	共	2003年09月17日	日本社会心理学会第44回大会発表論文集	著者：三浦彩美，山中伸介，米谷淳 21世紀COEプログラム「新産業創造指向インターナノサイエンス」への着手にともない様々な教育改革が進められていくことに先立ち，今現在の阪大原子力工学専攻大学院生が自身の所属する大学や原子力工学という学問領域をどのようにとらえているかを問うアンケート調査を実施した。経年変化に注目すると，入学時と比べて現在の方が，キャンパスイメージが良い方向へシフトしており，特許をとってみたい，起業したいなど，工学者としてのモチベーションも高くなっていることが示唆された。
20.日本人の表情に関する研究－映画作品における文脈情報の効果	共	2003年09月15日	日本心理学会第67回大会発表論文集，196	著者：三浦彩美，米谷淳，松本隆信 映画作品における音声情報の影響力を調べるために，邦画6作品からとりだした幸福，怒り，悲しみの場面を呈示刺激に用いた評定実験により検証した。音声つきと音声なし，文脈なしの3条件にわけて呈示し，強度を評定させた結果を比較したところ，音声条件の違いで評定強度に有意な違いがみられたのは幸福のみであった。このことから，観客は音声情報以外にもさまざまな情報を手がかりに登場人物の感情を推察していることが示唆された。
21.日本人の表情に関する研究－テレビでみられる子供の表情	共	2003年09月13日	日本心理学会第67回大会発表論文集，135	著者：三浦彩美，米谷淳 子どもと大人の表情の違いをとらえるために，TVドラマから子どもの表情をとりだし，評定実験および表情分析作業を行なった。評定実験の結果一致率が高かった47シーン107表情をFACSにより分析したところ，大人の表情と同様，基本表情以外の様々な顔の動きが観察された。また，恐れや幸福の表情において大人の表情とは異なる特徴があることも確認された。
22.表情および状況の認知に音声情報が及ぼす影響－邦画を用いた評定実験による検討	共	2003年08月02日	感情心理学研究，11，88	著者：寺井朋子，三浦彩美，米谷淳 映画作品をみて状況や登場人物の気持ちを読み取ろうとするとき，音声情報はその判断においてどの程度の影響力をもつのかを，邦画6作品からとりだした10場面を呈示刺激に用いた評定実験により検証した。音声つき条件と音声なし条件をもうけ結果を比較したところ，感情が強く表出されている場面よりも弱く表出されている場面の方が，表情の印象や状況の判断において，音声情報の影響を受けやすいことが示唆された。
23.日本人の表情認知構造－動作教示法による表情を用いた再検討	共	2003年04月25日	信学技報，103，21-26	著者：三浦彩美，米谷淳 日本人が，文化普遍な基本表情と，映画やドラマの感情表現場面でみられるような表情とをそれぞれどのような認知的枠組にもとづいて知覚しているのかを検討した。その結果，基本表情と典型的表情のそれぞれを日本人が正しく解読できることを示唆する結果が得られた。また，因子分析の結果にもとづいて日本人の表情認知構造の特徴を調べたところ，基本表情や欧米人の典型的表情に対する認知構造と，日本人の典型的表情に対する認知構造ではとくに悲しみのカテゴリーの位置に違いがあることが確かめられた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
24.映画における表情表出－洋画を用いた表情分析	単	2002年11月09日	日本社会心理学会第43回大会発表論文集	著者：三浦彩美，米谷淳 洋画3作品における登場人物の顔の動きを分析・記述することにより，欧米人が特定の感情をあらわすときの表情の特徴を調べた。被験者が特定の感情をあらわす場面として選択した38カットを分析対象とし，その場面の表情を頭や視線の動きも含めてFACSにより記述した。その結果，FACSやJACFEEで定義された基本表情とは違った顔の動きが9種類の表情それぞれにおいて観察された。
25.日本人の表情に関する研究－邦画における表情表出	単	2002年09月25日	日本心理学会第66回大会発表論文集，170	邦画3作品における登場人物の顔の動きをFACSにもとづいて分析・記述することにより，日本人が特定の感情をあらわすときの表情の特徴を調べた。被験者が特定の感情をあらわす場面として選択した33カットを分析対象とし，その場面の表情を頭や視線の動きも含めてFACSにより記述した。その結果，FACSやJACFEEで定義された表情とは違った顔の動きが9種類の表情それぞれにおいて観察された。
26.洋画を用いた感情評定実験－テレビ視聴との関連	単	2002年06月28日	信学技報，102，23-26	ポピュラーな洋画のシーンを呈示刺激として用いた感情評定実験と，テレビ視聴に関するアンケート調査により，映画作品における登場人物の感情評定と，幼少の頃から現在までのテレビ視聴時間や視聴番組のジャンルとの間にどのような関係があるかを検討した。その結果，呈示刺激に見出した感情表出の多様性と小学校時代のテレビ視聴時間との間に相関関係がみとめられ，感情認知とテレビ視聴に関連があることが示唆された。
27.映画における表情表出－self-conscious emotionをあらわす表情	単	2002年05月24日	感情心理学研究，11，34-35	映画の中の恥じらい，困惑，罪悪感をあらわす場面における登場人物の表情を分析することにより，自己意識感情をあらわす表情の特徴を調べた。評定実験によって抽出された邦画15，洋画10の表情をFACSにもとづいて分析したところ，恥じらい，困惑，罪悪感をあらわす表情には，視線回避や微笑といった共通の特徴が観察されることが分かった。また邦画のみに恥じらい困惑の場面で頭部を下げる動きがみられることなど，邦画と洋画の表情に違いがあることも示唆された。
28.日本人の表情に関する研究－邦画とJACFEEの比較	共	2001年11月09日	日本心理学会第65回大会発表論文集，187	邦画の対人場面でみられた典型的表情とJACFEEで定義された基本表情をそれぞれ動作教示法でモデルに表出させ，36の表情を呈示刺激に用いて，表情の強度と自然さを回答させる評定実験を行なった。その結果，恐れ，怒り，悲しみは邦画よりJACFEEの方が強度平均値が高いが自然さは邦画の方が高いことや，頭部や視線の動きが加わると表情がより自然なものとして評定されることがわかった。 著者：三浦彩美，米谷淳
29.映画における表情表出－洋画とJACFEEの比較	単	2001年10月13日	日本社会心理学会第42回大会発表論文集，102-103	洋画の対人場面でみられた典型的表情とJACFEEで定義された基本表情をそれぞれ動作教示法でモデルに表出させ，34の表情を呈示刺激に用いた評定実験を行ない，洋画の中でみられる表情とJACFEEの表情を比較した。その結果，驚き，恐れ，怒り，悲しみについては洋画よりもJACFEEの方が回答一致率が高く，強度も大きくとらえられる傾向があることがわかった。また頭部や視線の動きが加わることで評定に変化がみられた。
30.映画における表情表出－邦画・洋画・JACFEEの表情の自然さ	共	2001年06月01日	感情心理学研究，8，75-76	映画作品（邦画・洋画）の対人場面でみられた典型的表情とJACFEE（Japanese and Caucasian Facial Expressions of Emotion）で定義された基本表情を比較するために，動作教示法による52の表情を呈示刺激として用いた評定実験を行ない，自然な表情として認知される表情の特徴を調べた。その結果，驚きと恐れは洋画が，怒りと悲しみは邦画が，軽蔑はJACFEEが，それぞれ表情の自然さの評定値が有意に高かった。また頭部や視線の動きが加わった刺激の方が自然な表情としてとらえられることが示唆された。 著者：三浦彩美，米谷淳
31.日本人の表情に関する研究－邦画を用いた表情分析	共	2000年11月07日	日本心理学会第64回大会発表論文集，180	邦画3作品から基本感情をあらわす場面をとりだし，30場面を呈示刺激について複数選択式の評定実験を行なった。被験者が高い一致率で1つの感情を選んだ27場面の表情をFACSにより分析した。その結果，嫌悪の場面で視線を下げる動きが，悲しみの場面で視線や頭を下げる動きがみられた。基本表情に規定された表情以外の動きもみられ，邦画における感情表現がその表情においてさまざまなバリエーションをもつことがわかった。 著者：三浦彩美，米谷淳

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
32.映画における欧米人の表情表出	単	2000年11月03日	日本社会心理学会第41回大会発表論文集，138-139	洋画3作品から基本感情をあらわす場面をとりだし，30場面を呈示刺激について複数選択式の評定実験を行なった。被験者が高い一致率で1つの感情を選んだ23場面の表情をFACSにより分析した。その結果，驚きの場面で両眉を引き寄せる動きが，悲しみの場面で瞼を引き締める動きが観察され，映画作品における登場人物に必ずしも基本表情どおりの表情がみられるわけではないことがわかった。
33.日本人の表情に関する研究－邦画における感情表現	共	1999年09月05日	日本心理学会第63回大会発表論文集，82	代表的な邦画における2名の女優について，7つの基本表情が生起した時間を秒単位で測定した。幸福や中立の表情が多く，文脈の流れによって表情の出現が変化することもわかった。また，悲しみのシーンを取り出して詳細に分析したところ，顔を手で覆ったり，顔を下や横にそむけたりして悲しみを隠そうとするしぐさが共通して観察され，出現時間の半分近くが隠すシーンであることが確かめられた。 著者：三浦彩美，米谷淳
34.日本人の表情に関する研究－洋画を用いた認知実験	共	1999年06月18日	信学技報，HCS99-14，13-16	日本人の表情認知構造を調べるため，欧米の映画から選び出した81の表情刺激をランダムに112名の大学生に呈示し，表情表出の強さを評定させた。その結果，呈示刺激の表情により評定値が有意に変動することが確かめられ，評定者の性差や性差と呈示刺激の交互作用に有意な変動が認められた。因子分析により，欧米人の表情に対する表情認知構造は日本人の表情に対するものと大体同じだが，悲しみの認知だけが異なるということがわかった。 著者：三浦彩美，米谷淳
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.非言語行動の語用論的アプローチ	共	2003年09月	日本心理学会第67回大会	ワークショップの話題提供者を担当。 メンバー：荒川歩，三浦彩美，坊農真弓，大坊郁夫，戸梶亜紀彦
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年9月～2024年1月	武庫川女子大学紀要 投稿論文査読
2.2017年12月	日本感情心理学会「感情心理学研究」投稿論文査読
3.2016年12月	放送大学卒業研究 副査
4.2016年9月	日本感情心理学会「感情心理学研究」投稿論文査読
5.2016年3月～現在	日本教育心理学会 会員
6.2012年12月	放送大学卒業研究 副査
7.2012年5月26日～2012年5月27日	日本感情心理学会第20回大会 実行委員
8.2011年4月～2022年3月	武庫川女子大学人間学研究会 会員
9.2009年4月～現在	日本感情心理学会 会員
10.2000年5月～現在	日本社会心理学会 会員
11.2000年4月～2003年3月	神戸大学鶴山論叢刊行会 編集委員
12.1998年4月～現在	日本心理学会 会員